

甲賀広域行政組合消防本部管内における熱中症に伴う救急概要

令和5年8月15日現在

1 熱中症

熱中症とは、高温多湿な環境下で体温の調節機能が働かなくなり体内の水分や塩分のバランスが崩れ、頭痛、めまい、嘔気、嘔吐、けいれん、意識障害など様々な障害を発症するものです。

2 調査期間

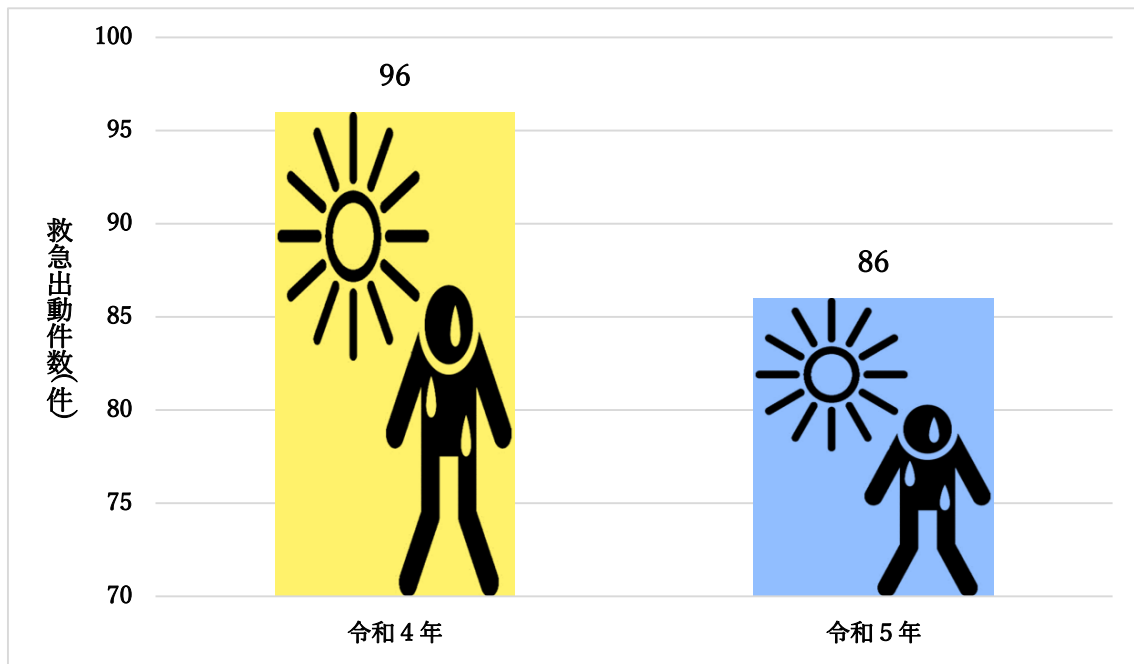
毎年、消防庁から「夏期における熱中症による救急搬送人員数」について調査依頼があり、令和5年の調査期間は5月1日から10月1日までとなっています。

今回の熱中症による救急搬送等の情報は、昨年と同様に令和5年5月1日から8月15日までの情報をとりまとめたものです。

3 救急出動件数

令和5年8月15日現在の熱中症に伴う救急出動件数は、86件であり、前年と比べて10件減少しています。

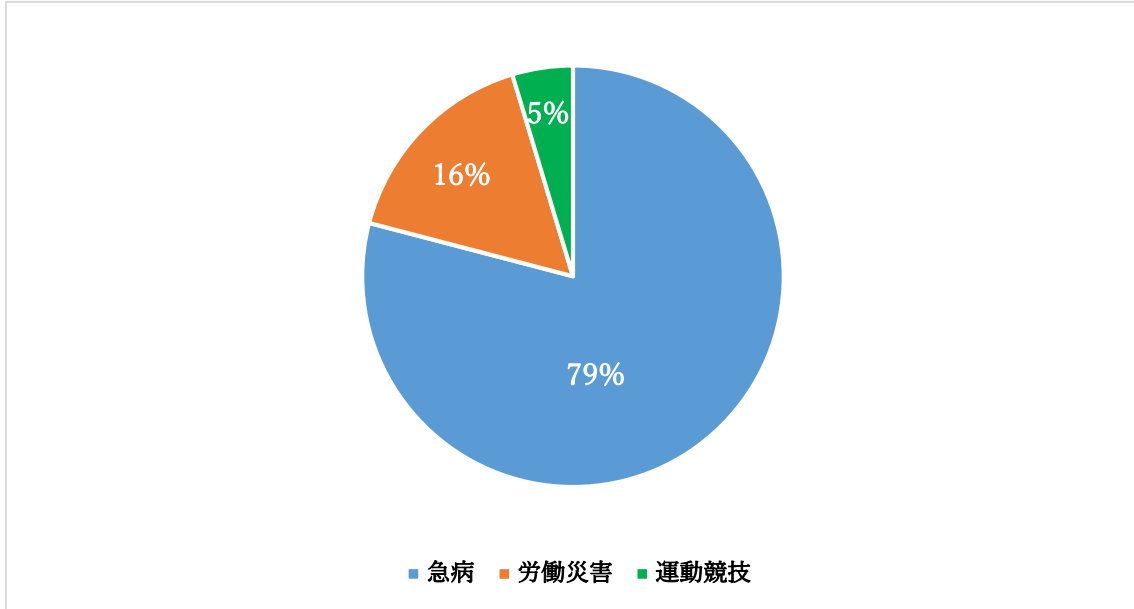
構成市・管轄消防署別の件数は、甲賀市61件（水口消防署21件、土山分署6件、甲南消防署12件、甲賀分署12件、信楽消防署10件）、湖南市25件（湖南中央消防署19件、湖南石部分署6件）、新名神高速道路0件、名神高速道路0件となっています。



熱中症による救急出動件数（各年5月1日～8月15日）

4 事故種別

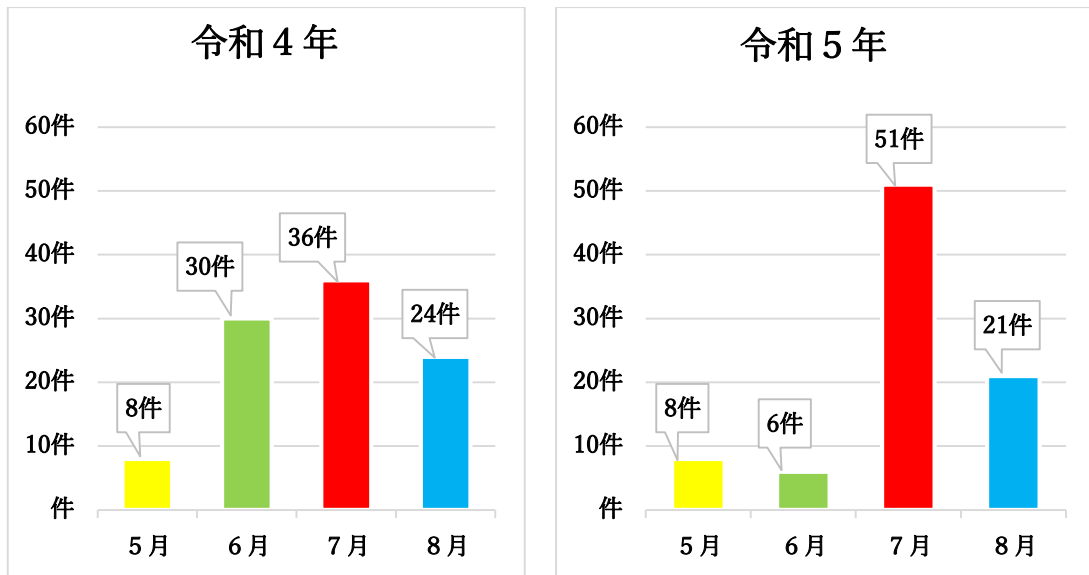
事故種別による出動件数は、急病が68件で全体の約79%と最も多く、次いで労働災害14件（約16%）、運動競技4件（約5%）となっています。



事故種別による出動件数の割合（令和5年5月1日から8月15日）

5 月別出動件数

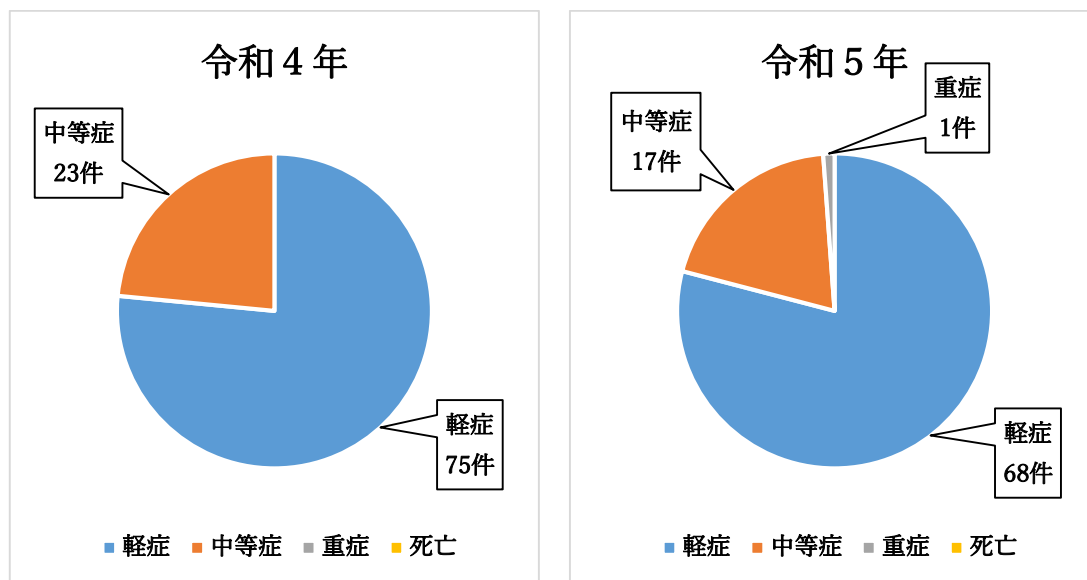
月別出動件数は、7月（51件）が最多となっており、次いで8月（21件）、5月（8件）、6月（6件）となっています。前年と比べて、7月のみ増加しています。



熱中症による月別の救急出動件数（各年5月1日～8月15日）

6 傷病程度別搬送人員

令和5年に熱中症により搬送された86人の傷病程度の内訳は、軽症68人、中等症17人、重症1人、死亡0人となっています。前年と比べて、軽症及び中等症は減少しているものの、重症が1人発生しています。



熱中症による傷病程度別搬送人員（各年5月1日～8月15日）

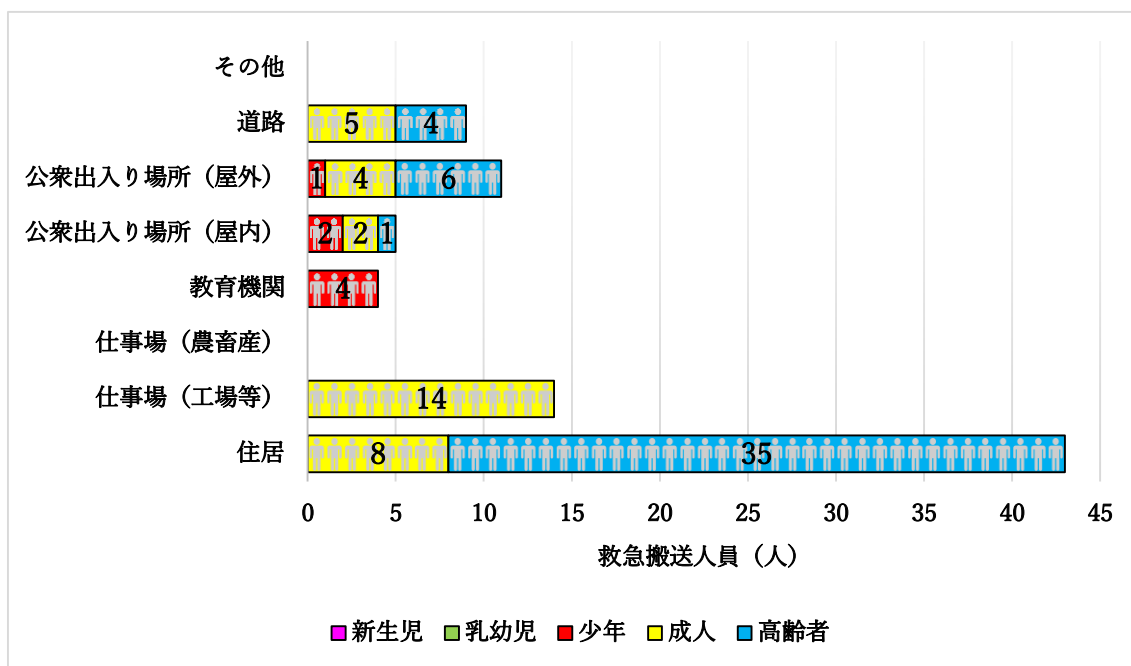
7 発生場所及び年齢別の救急搬送人員

令和5年の熱中症による救急発生場所は、住居が43人で全体の50%と最も多く、次いで仕事場（工場等）が14人（約16%）、公衆出入り場所（屋外）が11人（約13%）、道路が9人（約10%）、公衆出入り場所（屋内）が5人（約6%）、教育機関が4人（約5%）、となっています。

年齢別で見ると、新生児（生後28日以内）から乳幼児（生後29日以上、満7歳未満）までの発生はなく、少年（満7歳以上、満18歳未満）は、教育機関が4人と最も多く、次いで公衆出入り場所（屋内）が2人、公衆出入り場所（屋外）が1人となっています。

成人（満18歳以上、満65歳未満）は、仕事場（工場等）が14人と最も多く、次いで住居が8人、道路が5人、公衆出入り場所（屋外）が4人、公衆出入り場所（屋内）が2人となっています。

高齢者（満65歳以上）は、住居が35人と最も多く、次いで公衆出入り場所（屋外）が6人、道路が4人、公衆出入り場所（屋内）が1人となっています。



発生場所及び年齢別の救急搬送人員（令和5年5月1日から8月15日）

8 令和5年における熱中症の傾向

近畿地方の梅雨明けが発表された7月20日から8月15日までの内23日間は、最高気温が30℃を超える真夏日であり、この23日間で発生した熱中症の件数は38件と、全体の約44%を占めています。さらに、7月20日から8月15日までの内12日間は、最高気温が35℃を超える猛暑日で、26件の熱中症が発生しています。

救急要請時に気温が30℃を超えていた際の発生件数は51件と、全体の約59%を占めており、気温が30℃を超えると熱中症の発生件数が増加する傾向にあります。

年齢別に見ると、高齢者（65歳以上）の発生件数は46件で、全体の約53%を占めています。

9 まとめ

熱中症の発症は、気温が上昇する8時頃から増加する傾向があり、気温が下がっても、その余熱が夜間又は翌日以降にも影響し熱中症が発生しやすい傾向が表れています。特に高齢者は、気温の変化による体の異変に気づきにくく、また、加齢による体の衰えが原因で熱中症になりやすい傾向にあります。さらに軽症であった場合でも、中等症、重症へと移行する可能性があるため注意が必要です。

令和5年5月8日に新型コロナウイルスが5類感染症となったことにより、マスクを外す機会が増えてきましたが、夏季の気温・湿度が高い環境下でマスクを着用すると、熱中症のリスクが高くなるおそれがあります。マスクを着用される場合は強い負荷の作業・運動は避け、喉が渇いていなくてもこまめな水分補給が必要です。

最後に、令和5年5月1日から8月15日までの熱中症に伴う出動件数は、前年と比べて10件の減少となっていますが、8月16日以降も真夏日、猛暑日が予想され、熱中症には厳重な注意が必要です。予防対策をしっかりと心掛けるようにしましょう。

住居等の屋内で熱中症になった事例

- 高温多湿の室内にて意識状態が悪化したため救急要請
(令和5年6月 80代女性 中等症 気温 32.5℃ 湿度 77.7%)
- エアコン未使用の室内にて意識状態が悪化したため救急要請
(令和5年6月 80代男性 中等症 気温 27.6℃ 湿度 76.8%)
- 入浴後、高温多湿の室内にて嘔吐の症状が出現したため救急要請
(令和5年7月 70代男性 軽症 気温 26.9℃ 湿度 76.2%)
- 自宅内にて発熱、腹痛及び嘔気症状が出現したため救急要請
(令和5年7月 40代女性 軽症 気温 34.5℃ 湿度 68.5%)

屋外で熱中症になった事例

- 路上で倒れて動けないまま長時間屋外におり、発熱の症状が出現したため救急要請
(令和5年5月 80代女性 中等症 気温 26.1℃ 湿度 69.5%)
- 草刈り作業中、気分不良となり、めまいの症状が出現したため救急要請
(令和5年7月 70代男性 軽症 気温 25.6℃ 湿度 83.8%)
- 草刈り作業中、意識状態が悪化したため救急要請
(令和5年7月 70代女性 軽症 気温 29.9℃ 湿度 79.5%)
- 病院から徒歩で帰宅中、右手のしびれの症状が出現したため救急要請
(令和5年8月 60代女性 軽症 気温 33.4℃ 湿度 68.6%)

運動中に熱中症になった事例

- 屋内でバスケットボールの試合中、気分不良になり救急要請
(令和5年5月 10代男性 軽症 気温 26.5℃ 湿度 68.1%)

○屋外で陸上競技の練習中、気分不良になり救急要請

(令和5年7月 10代女性 軽症 気温 30.1℃ 湿度 75.1%)

○屋外でグランドゴルフの試合中、気分不良になり救急要請

(令和5年7月 80代男性 軽症 気温 30.7℃ 湿度 80.4%)

○ランニングと自転車で運動中、両手のしびれの症状が出現したため救急要請

(令和5年8月 40代男性 軽症 気温 33.6℃ 湿度 68.6%)

屋内における予防対策

- 屋内では、窓を開けて風通しを良くしたり、エアコン、扇風機等を積極的に使用し、高温多湿な環境を作らないようにしましょう。
- こまめに水分、塩分を補給しましょう。特に子ども、高齢者、障がい者等には、周囲の方による事前のサポートが必要であり、喉の渇きを感じる前にこまめに水分、塩分補給を促すことが重要です。

屋外における予防対策

- のどが渇いていなくても、こまめに水分、塩分補給をしましょう。
- 屋外では日傘、帽子等を使用し、できるだけ直射日光を避けましょう。
- 風通しの良い服装等を心がけ、体に熱を溜めこまない工夫をしましょう。
- 指導者等は、のどの渇きを感じる前にこまめに水分、塩分補給を促すことが重要です。積極的に、計画的に休憩を取らせるようにして、体調の変化を見逃さないようにしましょう。

熱中症警戒アラートの有効活用

熱中症警戒アラートは、熱中症の危険性が極めて高い暑熱環境になると予想される日の前日夕方又は当日早朝に環境省及び気象庁から都道府県ごとに発表されます。熱中症を予防するためには暑さを避けることが最も重要です。熱中症警戒アラートが発表されている日には、以下の行動を積極的にとりましょう。

- 熱中症を予防するためには暑さを避けることが最も重要です。暑さ指数（WBGT）を確認しましょう。
- 外出はできるだけ控え、暑さを避けましょう。
- 昼夜を問わず、エアコン等を使用して部屋の温度を調整しましょう。
- 熱中症のリスクが高い方（子ども、高齢者、障がい者等）に声かけをしましょう。
- 暑さ指数（WBGT）に応じて、屋外やエアコン等が設置されていない屋内での運動は、原則中止又は延期をしましょう。
- こまめに水分、塩分を補給する。涼しい服装にするなど普段以上に「熱中症予防行動」を実践しましょう。

熱中症に伴う救急出動状況

年別等		令和4年 5月1日～ 8月15日 (107日間)	令和5年 5月1日～ 8月15日 (107日間)	前年比増減
区分				
出 動 件 数		96	86	△ 10
搬 送 人 員		98	86	△ 12
種 別 (件)	労 働 災 害	16	14	△ 2
	運 動 競 技	11	4	△ 7
	急 病	69	68	△ 1
	転 院 搬 送			
1日平均の出場件数		0.9	0.8	△ 0.1
1日平均の搬送人員		0.9	0.8	△ 0.1
1ヶ月平均の出場件数		24.0	21.5	△ 2.5
1ヶ月平均の搬送人員		24.5	21.5	△ 3.0

令和5年 構成市・管轄消防署別救急出動状況(熱中症)

※令和5年5月1日～8月15日

市署別 区分		甲 賀 市					湖 南 市		高速道路		管轄外	合 計
		水口消防署	土山分署	甲南消防署	甲賀分署	信楽消防署	湖南中央消防署	湖南石部分署	新名神	名神		
労働災害	出動件数	4	1		2	1	3	3				14
	搬送人員	4	1		2	1	3	3				14
運動競技	出動件数	2	1					1				4
	搬送人員	2	1					1				4
急 病	出動件数	15	4	12	10	9	16	2				68
	搬送人員	15	4	12	10	9	16	2				68
転院搬送	出動件数											0
	搬送人員											0
小 計	出動件数	21	6	12	12	10	19	6				86
	搬送人員	21	6	12	12	10	19	6				86
合計	出動件数	61					25		0	0		86
	搬送人員	61					25		0	0		86

令和5年 月別救急出動状況（熱中症）

※令和5年5月1日～8月15日

種別 月別区分		労働災害	運動競技	急病	転院搬送	合計
		5月	出動件数	1	1	6
	搬送人員	1	1	6		8
6月	出動件数	1		5		6
	搬送人員	1		5		6
7月	出動件数	8	2	41		51
	搬送人員	8	2	41		51
8月	出動件数	4	1	16		21
	搬送人員	4	1	16		21
合計	出動件数	14	4	68	0	86
	搬送人員	14	4	68	0	86

令和5年 時間帯別救急出動状況及び傷病程度等（熱中症）

※令和5年5月1日～8月15日

種別 時間	労働 災害	運動 競技	急 病	転 院 搬 送	合 計	年齢別					時間帯別傷病程度					
						新生児	乳幼児	少年	成人	高齢者	合 計	軽 症	中 等 症	重 症	死 亡	合 計
						生後 28日未 満	生後 7歳未 満 28日 以上	7 歳 以上 18 歳未 満	1 6 歳 以上 8 歳未 満	6 5 歳 以上						
0時～2時			2		2				2		2				2	
2時～4時			1		1				1		1				1	
4時～6時					0						0				0	
6時～8時					0						0				0	
8時～10時	1	1	5		7			1	2	4	7	5	2		7	
10時～12時	4		13		17			3	5	9	17	14	2	1	17	
12時～14時	1	1	13		15			1	6	8	15	13	2		15	
14時～16時	4		14		18				5	13	18	12	6		18	
16時～18時	3	2	8		13			2	9	2	13	12	1		13	
18時～20時			3		3					3	3	2	1		3	
20時～22時			7		7				2	5	7	5	2		7	
22時～24時	1		2		3				1	2	3	2	1		3	
合計	14	4	68	0	86	0	0	7	33	46	86	68	17	1	0	86
傷病程度	軽症	13	4	51		68			7	31	30	68				
	中等症	1		16		17			2	15	17					
	重症			1		1				1	1					
	死亡					0					0					

令和5年5月1日～8月15日 搬送人員・気温別グラフ

